

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) retari

事業所番号	4271401012		
法人名	社会福祉法人 幸和会		
事業所名	グループホームなかよし		
所在地	雲仙市吾妻町牛口名373番地2		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に安藤病院が隣接しているため、急変時や事故発生時・夜間に早急な対応ができるので、職員・ご家族様にも安心してもらえる。ご入居者様一人一人に合わせてできること・できないことを把握して、日々介護にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームに隣接して協力医療機関があり、入居者の急変や体調不良があった際には迅速な対応ができ、入居者や家族の安心感に繋がっている。ホームの周囲には田畑が広がり、共用空間の窓からは野菜作りや、田植え、稲刈りの様子が見え、ホームの中にも四季の移り変わりを感じることができる。農家の方から周囲の畑で採れた野菜の差し入れがあったり、開設時よりクリスマスの時季には近隣の保育園へサンタクロースの格好をしてプレゼントを持って訪問するなど、地域との継続した繋がりを持っている。また、季節の行事に合わせて、入居者と一緒におせち料理やおはぎを作るなど、残存能力を活かしながら本人の出番をつくり、入居者のやりがいに繋げている。管理者は職員の意見や意向を汲み取り、働きやすい職場環境作りに努めている。管理者を含め職員間のチームワークも良く、今後の更なる入居者支援にますます期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口や事務所内の壁に理念を貼り、職員がわかるようにしている。	ホームの理念を玄関と事務所内に掲示し、毎日職員が確認しながら業務に取り組んでいる。職員は理念である、「家庭的な愛情とやさしさを持って接する」を心がけながら日々の介護実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事を通して、保育園やボランティアの方々との交流する機会を作り、地域とのつながりに努めてきたが、昨年より新型コロナウイルス感染拡大防止のためできていない。	コロナ禍にて地域関係者との接触が難しい状況ではあるが、ホームの近隣で農業に従事している方と挨拶を交わしたり、季節の野菜などの差し入れを頂くなど日常的な交流を継続している。ホーム開設時よりクリスマスの時季には近隣の保育園にサンタクロースの格好をしてプレゼントを持って訪問しており、今年もその関わりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会や法人内研修など昨年よりできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、年6回の運営推進会議を開催し、家族や民生員、広域の職員に参加して頂き、活動報告や入居者様の状況など報告を行っている。意見や要望などお聞きし、今後の活動に努めている。	運営推進会議は同系列のグループホームやずらぎと合同で定期的に開催しており、参加者と意見交換を行っている。議事録はたよりや請求書と併せて入居者家族へ郵送し、ホームの取り組みなどの状況報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で広域の職員の方に活動報告や事業報告をして指導や助言をしてもらっている。日常的に情報や課題解決に向けたアドバイスを頂いている。	日頃より島原広域市町村圏組合や市の福祉課、福祉事務所の担当者と電話や窓口で密な情報交換を行い、指導や助言を得ている。市主催のオンライン研修会等の案内があるが、ホームのWEB環境が不十分である為、現在は参加が困難な状況にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒の危険性のある入居者様に対しては、行動を見守っている。玄関の施錠は夜間のみに行っている。	ベッドから転落の可能性がある入居者に対して、ベッドを低くしたり、和室で休んで頂くなど工夫している。業務の中で「待って」などの言葉が聞こえた際は、その都度職員同士で注意し合いながら、身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束に関する指針を整備し、実践状況について定期的に話し合う機会を設けている。	身体拘束適正化委員会の位置付け分かりづらく、会議録の整備に不足が窺える。今後、同委員会の位置づけを分かりやすく明確化し、会議録の整備と委員会での検討事項を全職員に周知することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に院内勉強会に参加し、虐待防止に努めている。現在は、コロナ禍のため、勉強会は行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用していた入居者がいたが現在はいないので、今後学ぶ機会を持ち、理解を深めてもらうため、研修会に参加し学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内の様子や入居者様の様子など見ていただき説明を行っている。サービス内容の改定時にも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ予防対策で面会制限を行っているが、窓越しや玄関先での面会を通して、状態報告・活動報告を行い意見要望を伺っている。	毎月家族へ「なかよし便り」を郵送し、入居者の状況を報告している。コロナ禍にて窓越しではあるが面会に訪れた家族へ意見や要望を伺っている。家族の訪問時に臥床している事が多かった入居者について、家族より座らせて欲しいとの要望があり、入居者の体調を考慮しながら離床を促す対応を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、業務上気づいた課題や情報などは、勤務の申し送り時に共有しケアに反映している。	管理者は職員と個別での面談時間を確保することが難しい状況である為、普段の業務中や、休憩時間を通じて職員の意見を汲み取るようにしている。職員の意見や要望から、ホームに必要な物品の購入や業務改善に反映するよう努めている。職員の資格取得についても勤務を調整するなど配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、環境づくりに努めたいと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は、病院全体での勉強会や外部での研修会等に参加していたが、現在はコロナ禍で開催や参加困難な状況が続いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、勉強会や相互の訪問等の交流は行っていない。今後、徐々に勉強会や交流の機会を作っていく。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望で来所されたときに、不安なことや困っていることをケアの要望など尋ねている。ホームでの取り組みを説明したり、ホーム内を案内し安心して生活を送って頂けるよう心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所持など困っていること・不安なこと・要望などをお伺いし、把握に努めている。信頼関係がつかれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所時に状況確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が好まれていること・できることをスタッフと共に行ったり、教わったりして支えあいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め考慮しながら、本人の日ごろの様子を口答で伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、友人や親類の方が自由に来所されたり、イベント行事に参加して馴染みの方と会える機会があったが、現在はコロナ禍にて交流が困難になっている。	入居者の馴染みの友人が隣接する協力医療機関に外来受診に訪れている時や系列のデイサービス事業所を利用している際に交流の機会を持つよう支援し、馴染みの関係の継続に努めている。コロナ禍以前は彼岸の時季に墓参りを個別支援にて行っており、コロナ収束後には再開する計画である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席を考慮したり職員が介入し会話の橋渡しを行い、孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方には、時々顔を出し、様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分らしく生活できるよう、個人の希望・意向の把握を本人や家族に伺い努めている。意思疎通が困難な場合でも日ごろの表情や仕草から思いを汲み取ることができるよう努めている。	入居時に本人や家族より伺った生活歴等をもとに、普段の様子や会話の中からその方の意向や思いを汲み取るよう努めている。把握した情報は介護日誌や申し送りに記載して職員間で共有し、より良いケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前に利用していた施設や病院・ケアマネジャーからの情報提供や入居時の家族への聞き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の状態変化を記録し、全職員で共有・把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様・スタッフにて話し合い、介護内容を決定し計画に反映している。家族様多忙にて参加できない時は、電話にて説明し同意を得ている。	把握した入居者の意向と職員の意見を集約し、介護計画を立案している。介護計画については概ね6カ月ごとに見直しを行うこととしているが、毎月のモニタリングによる入居者の状況に応じて、必要時にはその都度介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にケア内容、入居者様の状態を随時記録している。気づきや工夫したことも記録している。毎日、スタッフ間で情報交換も同時に行い、計画見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・ご家族様の状況に応じて支援内容を変更し、柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅での生活の情報収集のため、民生員の方より話を聞いている。地域の情報を得るため、保健師の方より話を聞いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の安藤病院への受信に同行し、情報交換、支持を受けている。急変時の対応、受け入れもできている。他科受診は、ご家族様に付き添ってもらい、受診内容、結果を聞いたり電話にて直接医療スタッフと話し、情報を得ている。	入居時にホームの協力医療機関について説明し、本人及び家族より同意を得た上で協力医へ変更している。他の医療機関への受診には家族へ送迎を依頼することを基本としているが、必要に応じて職員も同行している。協力医がホームに隣接している為、急変時には迅速に対応され、入居者や家族の安心にも繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が常勤している。日常のかかわりの中で、介護職が気づいたことや情報はその場で伝達され、速やかに対応している。主治医の判断が必要なときは病院に連絡をして指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急変により入院しても、病棟スタッフへ現在の病状や治療内容を伺い、退院に向け受け入れ態勢を整える。また、面会し本人さんに会い、直視にて情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に終末期はどうするか尋ねている。	ホームで看取り支援は行っておらず、入居時にその旨を説明している。医療的ケアが必要となった場合は系列の特別養護老人ホームや協力医療機関への転院等、家族と話し合いながら支援している。夜間の急変時には隣接の協力医療機関から迅速に対応できる態勢を整え、重度化した場合にも可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、敷地内にある安藤病院が受け入れをして下さることになっているので、すぐ連絡するようにしている。また、研修に参加したり施設であった急変・事故発生を事例にあげ、どう対応をすべきかスタッフ間で情報を伝えたり実際に行ったりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練・防災訓練を定期的に行っている。	同系列の「グループホームやすらぎ」と合同で避難訓練を実施している。地震などの自然災害に対する訓練も実施し、有事の際に入居者や職員が落ち着いて行動できるよう努めている。避難訓練には地域の婦人防火隊が参加するなど地域との協力体制を構築している。	避難時における緊急持ち出し品や、入居者情報の一覧表を整備されているが、保管場所が定まっておらず、職員への周知が十分できていない。また、避難場所についても職員へ十分に浸透していない。有事の際に短時間で、且つ、安全に避難が行えるようこれらを周知しておくことが望まれる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわない言動や入居者様を敬う言葉使いに心がけ、自己決定しやすい対応に努めている。	職員は排泄誘導の際に入居者の羞恥心や自尊心に配慮し、本人の耳元で声掛けを行いトイレへ誘導している。入居者が排泄に失敗した場合や職員が異変に気づいた場合はさりげない対応で居室や浴室で支援している。排泄介助や入浴介助など入居者の意向がある場合は同性による介助を行うよう配慮している。入居者への言葉遣いなど接遇マナーに努め、職員が互いに注意し合いながら実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を大事にしぶんの想いを伝えることができる環境やスタッフ間でも情報交換しニーズの把握をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、個々のペースを大切にし、希望に沿って支援している。情報を共有しながら希望の把握をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりのに合わせ、整容の声掛けを行い、衣類等は入居者様と一緒に用意している。資格を持ったスタッフがいるので、定期的に散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	インテークで、嗜好・アレルギーを把握し、入居者様の状態に合わせた食事形態を考慮し提供している。季節行事は食事でも楽しめるよう毎回工夫している。	食事メニューは隣接する協力医療機関の管理栄養士が作成し、メニューに沿って野菜の皮むきや食器洗いなど入居者ができる範囲で行い、職員と入居者が一緒に食事を調理している。行事食(おせち料理・おはぎ)も入居者と職員と一緒に作る事で、季節を感じるとともに、入居者のやりがいに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、毎食チェックし記録している。一人ひとりにあった形態(刻み・ミキサー)で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。は義歯は洗浄剤につけるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を利用し、時間を見計らってトイレ誘導をしている。	入居者毎の排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握し、トイレへ排泄誘導を行うことで、日中は可能な限りオムツやリハビリパンツを使用しないよう取り組んでいる。入院等で一時的にオムツを使用した際も、本人の状態に合わせて使用物品を変更するなど、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、乳製品や水分を多めに摂取してもらう様心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認し、希望を聞き入浴してもらっている。	毎日でも入浴できるよう風呂の湯を沸かしており、入居者は概ね週4回程度入浴している。入居者の意向に沿って同性介助にも対応している。入浴の順番は特に決めておらず、入居者のその日の気分や体調、タイミングや入浴時間を考慮し、入居者がリラックスして入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調・病状にあわせて、休息をとり無理のない行動をして頂く。睡眠時間を考慮し、昼間の活力ある行動にも心がけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化を確認し、飲み忘れのないよう服薬の確認と飲み込みの確認・服薬前、誤薬の防止のため、名前の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の性格・生活歴に合わせた会話を心がけ、心が和む明るい雰囲気になるよう努めている。悩みのある方には、背後にある感情を汲み取り、傾聴し理解に努める。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を見て、気分転換のため、戸外の空気にふれ、季節感を体感してもらうように心がけ支援している。	入居者の体調に配慮しながら気候が良い時には庭先のベンチでお茶を飲んだり、庭先を散歩したりしている。ホームで小さな家庭菜園を設け、ブロッコリーや白菜、玉ネギなどを作って入居者の楽しみに繋げている。ホーム周辺には田畑が広がっており、窓から外を眺め、季節を感じる事ができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活面において、必要な物品を伺い、購入できるように努めている。ご家族の支援もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時、家族や知人に電話を掛けたり手紙を書いてもらったりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁飾りを作ったり置物などでホーム内で季節を感じていただけるようにしている。不快な音や光に配慮し、温度・湿度の調節もしている。	毎朝、職員が掃除機掛けとモップ掛けを行い、ホームの清潔保持に努めている。入居者もほうきを用いて一緒に掃き掃除を行っている。カレンダーや季節の飾りを入居者と一緒に作成して共用空間の壁面に飾り、室内でも季節を感じる事ができるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性や体調を見て座席の変更を行っている。また、気の合った入居者同士が会話やテレビが見やすい空間を設置。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人が使用していた馴染みの物をご家族と相談しながら、持参していただいている。本人が安心して過ごして頂けるような居室作りを支援している。	居室は共用スペース同様、毎朝、職員が掃除機掛けとモップ掛けを行い、清潔保持に努めている。入居時に入居者本人にとっての馴染みの物を持参してもらい、入居者や家族と一緒に配置することにより居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレに手すりが設置されており、手すり歩行で施設内回れるように目印や名札があり、安全に自立した生活を行うことができるよう工夫している。		